



[teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



恵庭市西島松2遺跡 1275号土坑（縄文時代晩期）

○平成 19 年度発掘調査遺跡	2
○平成 19 年度の調査	3
○国宝誕生	5
○秋季講演会『船の考古学』	6
○特別展示 交流の考古学3『船』 展示資料紹介	7
○人事異動	8
○表紙解説	8

○平成 19 年度発掘調査遺跡

(平成 19 年 4 月 1 日現在)

委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	摘要	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道 337 号千歳市新千歳空港関連工事	キウス 5	千歳市	6,100	縄文時代、擦文時代の集落跡
			オリカ 2		4,200	縄文時代、アイヌ文化期の集落跡
			梅川 4		5,050	縄文時代晩期の土壙墓群
			祝梅川小野		12,310	縄文時代中期の遺物包含地
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野 2	北斗市	9,230	縄文時代中～後期の集落跡
			矢不來 9		2,030	縄文時代中～後期の遺物包含地
	旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	サンル 4 線	下川町	3,900	縄文時代の遺物包含地
	室蘭開発建設部	一般国道 36 号登別拡幅工事	虎杖浜 2	白老町	1,590	縄文時代前期の集落跡
	網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路改良工事	旧白滝 5	遠軽町	2,366	旧石器時代の遺物包含地
			ホロカ沢 1		3,800	旧石器時代の遺物包含地
			旧白滝 15		4,800	旧石器時代の遺物包含地
			旧白滝 16		1,800	旧石器時代の遺物包含地
			旧白滝 1		5,000	旧石器時代の遺物包含地
			旧白滝 5 (15 年度分)		整理作業	旧石器時代の遺物包含地
釧路開発建設部	一般国道 44 号釧路外環状道路改良工事	天寧 1	釧路町	整理作業	縄文時代中～晩期の貝塚、遺物包含地	
石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	対雁 2	江別市	150	縄文時代晩期～続縄文時代の遺物包含地	
国土交通省北海道開発局計				62,326		
東日本高速道路株式会社	函館工事事務所	北海道縦貫自動車道建設工事	濁川左岸遺跡	森町	調査報告書刊行	縄文時代前期～後期の集落跡
			石倉 1 遺跡		調査報告書刊行	縄文時代中期～後期の集落跡
	東日本高速道路株式会社北海道支社計				0	
北海道	石狩支庁	柏木川改修工事	西島松 2	恵庭市	8,150	縄文時代早～晩期・擦文時代の集落跡
			西島松 2・5		整理作業	縄文時代早～晩期・擦文時代の集落跡
	胆振支庁	道道北進平取線改良工事	穂別 D	むかわ町	4,240	縄文時代中期・後期、アイヌ文化期の集落跡
	釧路支庁	道道鶴居弟子屈線改良工事	下幌呂 1	鶴居村	1,500	縄文時代早期・後期の遺物包含地
北海道計				13,890		
合計				76,216		



遺跡位置図 (現地調査遺跡のみ表示)

○平成 19 年度の調査

ちとせ
千歳市キウス5遺跡

遺跡は、馬追丘陵西麓に位置し、キウス川右岸の段丘から低位部に広がっています。平成15・16・18年度にも発掘調査を行っており、今年度は4回目の調査になります。

今年度は台地部を調査しており、主に縄文時代中期の竪穴住居跡、土坑、焼土などの遺構が見つかっています。縄文時代中期の竪穴住居跡は互いに近接しており、規模が4～5m程度のやや小型のものや8mを越える大型のものがみつかっています。焼土は列状に並ぶ分布が特徴的です。遺物は縄文時代の土器・石器や擦文時代の土器、後期旧石器時代の石器などが出土しています。縄文時代の土器は中期・晩期のものが主で、石器は磨製石斧や砥石が多く出土しています。



千歳市キウス5遺跡

千歳市オリカ2遺跡

遺跡は、馬追丘陵西麓に位置し、オリカ川の河岸段丘上に立地します。今年度の調査面積は4,200㎡で、来年度以降も調査が予定されています。

6月末現在で、アイヌ文化期の道跡、縄文時代の土坑3基と焼土13ヵ所を検出しました。遺物は、縄文時代早期後半、中期、晩期の土器や石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、石核、フレイクなど合わせて約6,500点が出土しています。礫や礫片は非常に少なく、フレイクも少ない割には製品の出土量が多いのが特徴です。なお、縄文時代晩期の土器が遺物点数の95%以上を占めています。



千歳市オリカ2遺跡

うめかわ
千歳市梅川4遺跡

遺跡は、祝梅川右岸の段丘上に立地しています。7月末現在で、第I黒色土層から樽前c軽石層の上面を調査しており、土坑墓及び土坑約400ヵ所を確認しました。土坑墓及び土坑の大きさは、径が約1～1.5mの円または楕円形で、深さは最大で確認面から0.8m程です。遺構内や周辺から出土した土器から、縄文時代晩期後葉に構築された遺構と考えられます。遺物は、土坑墓と思われる遺構の上面から石棒1点が出土したほか、土器片や黒曜石製の石鏃などが多く出土しています。



千歳市梅川4遺跡

しゅくばいがわおの
千歳市祝梅川小野遺跡

遺跡は、千歳市街地の東端に位置し、千歳川の支流である祝梅川右岸の標高10～15mの段丘上に立地しています。これまでの調査で縄文時代前期～晩期、続縄文時代、擦文時代、近世アイヌ文化期の遺構、遺物が発見されています。

主な遺構には、近世アイヌ文化期の平地式住居跡や道跡、擦文時代の竪穴住居跡と集石、縄文時代晩期の土坑墓、縄文時代前・後期の竪穴住居跡、土坑、Tピットがあります。

このうち、縄文時代前期の住居跡周辺からは、ほぼ同時期の土坑が数基みつかっています。これらの土坑からは掌大にまとめられた粘土のかたまりが多数出土しています。また、縄文時代後期の住居跡には、土器片で囲った炉がみられます。



千歳市祝梅川小野遺跡



北斗市館野2遺跡

しらおい ごじょうはま
白老町虎杖浜2遺跡

遺跡は、JR 登別駅の北東約1km、標高45～50mの段丘上に立地します。貝塚を伴う縄文時代前期の集落遺跡です。本年度は、これまで調査された貝塚や堅穴住居跡群の近くから帯状に分布する「盛土遺構」が見つかりました。盛土遺構は、堅穴を掘った際に生じた捨土が盛り上げられたもので、その中には石器や土器のほか骨片など多量の遺物が含まれています。特に石器の材料となる礫が最も多く、石器類では北海道式石冠・すり石・石錘・つまみ付きナイフなど、土器では縄文時代後期のものが多く出土しました。また盛土の裾部からは、焼土が列をなして見つかりました。

ほくと たての
北斗市館野2遺跡

遺跡は、北斗市街地から約3.5kmの函館湾を一望する標高49～58mの海岸段丘上に位置しています。時期は、主に縄文時代中～後期初頭で、遺構は、堅穴住居跡16軒、土壇54基、焼土37カ所などがあり(6月末現在)、住居跡の様子から複数時期の集落があったとみられます。土坑は墓やフラスコ状のものがああります。遺物は、非常に多く、土器は、円筒土器上層式や見晴町式、榎林式、大安在B式、煉瓦台式、大津式、天祐寺式、十腰内式系など、石器は、石槍、石鏃、石錘、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、砥石、石皿・台石など、土製品は土偶がああります。なお、頁岩製の細石刃1点も出土しています。



白老町虎杖浜2遺跡・盛土遺構調査状況



旧白滝5遺跡 調査状況

えんがる しらたき
遠軽町白滝遺跡群

今年度は、昨年度から継続調査の旧白滝5遺跡をはじめ、旧白滝1遺跡、旧白滝15遺跡、旧白滝16遺跡、ホロカ沢I遺跡の5遺跡を調査する予定です。遺跡は、後期旧石器時代のもので、白滝市街地の北西約4～6kmの段丘上に連なって分布しています。

すでに調査の終了した旧白滝1遺跡では、札滑型・広郷型の細石刃石器群が、旧白滝16遺跡からは舟底形石器・有舌尖頭器など、後期旧石器時代後半から終末期とみられる遺物が出土しています。

えにわ にししまつ
恵庭市西島松2遺跡

遺跡は、JR 恵み野駅から西に約700m、柏木川とキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約28mの河岸段丘上に立地します。縄文時代早期からアイヌ文化期までの遺構が見つかっており、これまで発見された土坑の数は1300基を超えます。今年度は、8世紀代の擦文時代の住居跡が10軒見つかったほか、縄文時代晩期後葉の墓などが検出されています。写真は1196号土坑(長径約160cm、短径130cm)で、縄文時代晩期後葉の墓です。被葬者は南頭位で、左脇からは黒曜石の剥片約150点が袋に入れられたかのようにまとめて出土し、足元には頁岩製のナイフ、北側壁際にはやや大きめの礫が2点のほか石斧などがありました。また、墓の長軸両端には墓標の跡と見られる柱穴が見つかっています。



恵庭市西島松2遺跡 1196号土坑

むかわ町穂別D遺跡

遺跡は、鶴川の支流である穂別川の右岸の段丘上、むかわ町穂別の市街地にあります。鶴川は日高山脈北部のトマム岳に源を発し、占冠村の盆地や赤岩の峡谷を流下し太平洋に注いでいる一級河川であり、むかわ町内で知られている約百カ所の遺跡の多くは、その流域に分布しています。穂別地区には縄文時代早期からアイヌ文化期までの遺構や遺物が確認されており、昭和30～40年代には穂別高校郷土研究部による調査が行われています。今回の調査は道道の改良工事に伴って行われているもので、8月末までに4,240㎡を調査する予定です。6月末現在で、遺構は、柱穴11カ所、焼土6カ所、遺物は、鉄鍋片、鎌、擦文土器、縄文時代中期の土器片、黒曜石製の石器、緑色泥岩製の石斧とその製作剥片や素材が出土しています。



むかわ町穂別D遺跡

○国宝誕生

文部科学大臣は、函館市（旧南茅部町）著保内野遺跡出土の重要文化財「土偶」を、平成19年6月8日付け官報号外第121号掲載により、国宝に指定した。指定内容は次のとおり。

種別 国宝（考古資料）

名称及び員数 土偶（北海道函館市著保内野遺跡出土） 大きさ：高41.5cm

所有者 北海道函館市

指定基準 国宝及び重要文化財指定基準（昭和26年文化財保護委員会告示第2号）の考古資料の部の国宝「重要文化財のうち学術的価値が極めて高く、かつ、代表的なもの」による指定の理由 縄文時代後期の集団墓の一角から、土坑に埋納された状態で発見された土偶。薄手中空で、頭部の突起・両腕は欠損するが、その他はほぼ残存し、頭部から脚先まで全身が精緻につくられている。顎の部分には黒色の、胴部には赤色の顔料が塗られていた痕跡もある。本土偶は中空土偶として現存しているもののうち最大、かつ遺存状態が良好で、その出土状態を把握することもでき、当時の信仰や祭祀の実態を明らかにする上で欠かせない資料である。縄文時代後期を代表する優品として、また土偶造形の到達点を示すものとして、きわめて貴重である。（縄文時代）

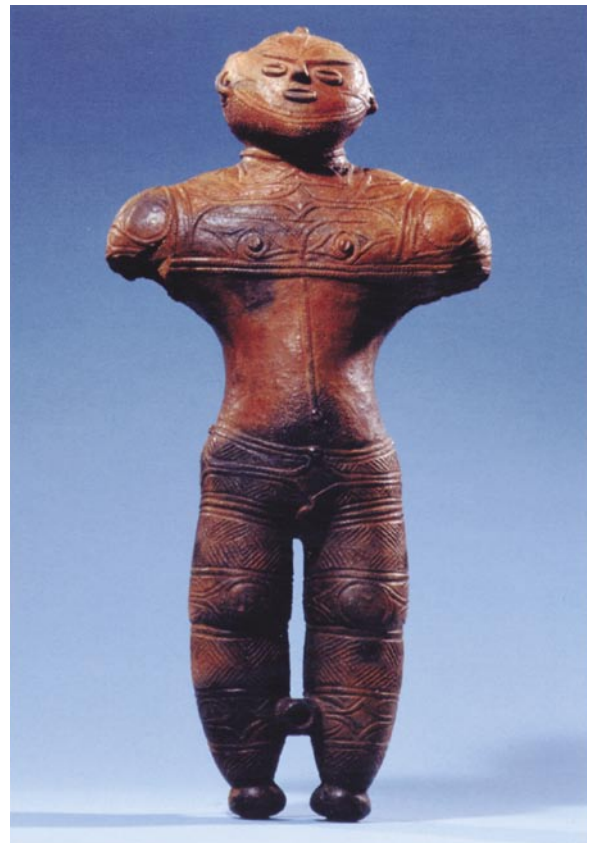
指定年月日 平成19年6月8日

これによって、北海道で初めての国宝が誕生したことになる。縄文時代の考古資料としては、新潟県十日町市笹山遺跡から出土した縄文時代中期の深鉢形土器（火焰土器）と長野県茅野市棚畑遺跡から出土した縄文中期の土偶（通称「縄文ビーナス」）について、全国3番目の国宝である。

函館市ではこれを記念して、7月1日から8月19日まで、特別企画展『蘇る北の縄文ロード』を市立函館博物館で開催して、実物を展示している。また、これに先立ち、南茅部地区で6月1日から3日までお披露目展を開催した。南茅部地区では、前日からキャンピングカーで宿泊し一番乗りをした方もおり、入場者が三日間で3000人近くになった。

報道では、昭和50年にジャガイモ掘りの最中に「土偶」を発見した小坂アエさんが大きく取り上げられている。小坂さんが南茅部町（当時）に寄贈してくださったおかげで、昭和54年に重要文化財となり、今回の国宝指定へとつながっている。「土偶」を見つけている小坂さんの笑顔の写真を見ていると、何かほほえましくなる。

また、「土偶」の保存と活用については、これまで地元の並々ならぬ努力があった。普段、旧南茅部町役場の金庫に納められており、いつも見る事ができる状況でなかった。そのため、地元の方々にもみせるために、町職員の努力で展示施設を利用して特別公開したこともあると聞く。また、「カッキー（茅空）」の愛称がある。



〈国宝〉土偶 函館市教育委員会蔵
（北海道函館市著保内野遺跡出土）

町が募集し、茅部の地名を含み、未来へつながると天空からの贈り物のイメージという。このように、地元で親しまれる一方で、国内各地を初め、ベルギー、アメリカ、イタリア、イギリスなどで日本を代表する遺物として出品されてきた。

函館市では平成22年に「縄文文化交流センター」の建設を目指し、ここに国宝に指定された「土偶」をはじめ、発掘資料を展示するという（函館新聞 2007. 7. 3記事）。出土品の公開・活用を行う機会を多くするための、行政としての動きである。

今回の国宝指定が身近に感じられるのは、こうした発見者や地元の方々の努力が報いられたことにあるのだろう。大事なものは、文化財として地元の方々にどれだけ親しんでもらえるかということではないだろうか。

ところで、考古資料では、重要文化財に指定されているものの中から国宝が指定されるのであるが、「国宝」のもつひびきは格別であることを今回の事例が示している。北海道教育委員会と埋蔵文化財センターが調査し、重要文化財になったものに、美々4遺跡出土動物形土製品（千歳市：縄文時代：昭54年指定）、ママチ遺跡第310号土坑墓出土土面（縄文時代：昭和63年）、美利河1遺跡出土品（今金町：旧石器時代：昭和63年）、湯の里4遺跡土壙出土品（知内町：旧石器時代：平成3年）、美々8遺跡出土品（千歳市：擦文～アイヌ文化期：平成17年）がある。この中から将来国宝に指定されるものがあるかもしれない。各地で発掘調査を実施しているものとして、これからも幾つかの国宝候補を掘り出す機会に恵まれられないともかぎらない。それだけ身を引き締めて現場に望むとともに、地元の方々に埋蔵文化財の重要性を訴え続けなければならないと考えている。

北海道で埋蔵文化財に関係する仕事をしているものとして、今回の国宝誕生は大変喜ばしいことである。北東北3県と北海道に所在する「縄文遺跡群」と常呂、標津の「竪穴住居遺跡群」をそれぞれ世界文化遺産として登録を目指す話もあり、これらをきっかけにして、縄文文化そして埋蔵文化財への関心がいっそう高まることを期待したい。

(H19.7.31記 第1調査部長 越田賢一郎)



土偶の国宝指定を報道した北海道新聞、朝日新聞、読売新聞の記事（2007.3.17）

○秋季講演会『船の考古学』

『交流の考古学3 船』展にあわせて、秋季講演会を開催いたします。多数の方々のご来館をお待ち申し上げます。

日時：平成19年11月10日（土） 13:30～15:30

講演題：『船の考古学』（仮題）

講師：宇野隆夫氏（国際日本文化研究センター教授）

入場無料

○特別展示 交流の考古学3『船』 展示資料紹介

平成19年度第2回特別展示として、9月29日（土）～11月26日（日）交流の考古学3『船』を開催いたします。
多数の方々のご来館をお待ちいたしております。

<展示概要>

1 各時代別の船関連遺物

1-1 縄文の船

○千歳市キウス4遺跡船形土製品

1-2 続縄文の船

1-3 オホーツクの船

1-4 擦文の船

1-5 アイヌ文化の船

○千歳市ユカンボシC15遺跡出土船関係遺物

○千歳市美々8遺跡出土船関係遺物

2 海を越えた交流によりもたらされたさまざまな品々

2-1 本州から

2-1-1 ヒスイ

○千歳市美々4遺跡出土ヒスイ玉

○千歳市キウス4遺跡出土ヒスイ玉

2-1-2 赤彩土器

○千歳市キウス4遺跡出土赤彩土器

2-1-3 須恵器

○千歳市キウス5遺跡出土須恵器

○千歳市ユカンボシC15遺跡出土須恵器

2-2 大陸から

2-2-1 陶磁器

○千歳市ユカンボシC15遺跡出土青磁皿

○千歳市チブニー1遺跡出土青磁碗

2-2-2 銭貨

○千歳市美々8遺跡出土銭貨

3 船からみる先史時代の生業

3-1 鯨漁

3-2 海獣狩猟

3-3 アワビ漁

○は、センター所蔵主な展示資料



千歳市美々8遺跡舷側板出土状況



千歳市ユカンボシC15遺跡舟敷出土状況



千歳市美々8遺跡あかくみ出土状況

○人事異動

○常勤役員の選出（4月1日付）

- ・畑 宏明 常務理事

○採用（4月1日付）

- ・越田賢一郎 第1調査部長
- ・山本昌利 総務部業務課参与

○転出（3月31日付）

- ・千葉英一（第1調査部長）
北海道教育庁生涯学習部生涯学習推進局文化・スポーツ課主幹

○退職（3月31日付）

- ・菊地隆雄（総務部業務課参与）

○昇任（4月1日付）

- ・倉橋直孝 第1調査部普及活用課主査
（第1調査部普及活用課主任）

○表紙写真解説

恵庭市西島松2遺跡 1275号土坑。長径約160cm、短径約130cmの縄文時代晩期後葉の墓です。葬法は、南頭位（写真上方）の屈葬で、被葬者の頭、腰、足の部分を痕跡的に見ることができます。遺体の右脇には石斧が置かれ、体の上下にはベンガラが多量に散布されていました。



◆交通案内◆

- ・JR大塚駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス（文教通西循環線）・夕鉄バス（文京台南町行）に乘車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乘車「北翔大・札学院大前」下車、徒歩15分